

くろしず
あっぱ

JR関内駅近くで営むライブレストラン「ハート&ソウル」で、毎晩のようにギターを手にステージに立ち、甘い歌声で観客を酔わせる。本業の傍ら、8月3日に象の鼻パーク（横浜市中区）で行われる東日本大震災の被災地支援イベント「横濱音楽波止場」の象の鼻を成功させるため、東奔西走している。

原 正行 さん 55

「横濱音楽波止場」を企画運営

音楽の力で東北支援

同市金沢区出身。中学生の頃、フォークソングブームでギターを手にした。ビートルズに影響を受け、洋楽のとりこになった。高校卒業後、横浜を中心にディスコや飲食店と契約し、客前で歌うプロに。

1997年6月、念願の店を持ったが、最初は自身とベイスギターだけ。規模を拡大しながら移転を重ね、2010年7月、現在地に店を構えた。

バンドはドラム、ピアノと少しずつ増え10人ほどになった。日替わりのゲストボーカルとともに、ステージに立つ。ロック、ソウル、ポップスなど60〜80年代のナンバーを中心にレパートリーは約800曲。客のリクエストに答え、多い日には50曲も歌う。

後の2011年9月。しかし、客足は鈍く、赤字だった。それでも、チケット代の一部を被災地向けに寄付した。

2回目以降は、若い才能の発掘と震災の風化防止に役立てようと、新人バンドにも積極的に声をかけてきた。昨年は700人の観客が集まり、人のつながりを実感した。今年には1000人を目標に掲げる。

震災後3年が過ぎた今も、仮設住宅や避難先で暮らす被災者に思いをはせる。

「音楽を聴きたい人、踊りたい人、それぞれの楽しみ方で過ごしてもらうのが流儀」と語る。

東日本大震災では、店も被害を受けた。酒のボトルが床に落ちて割れ、自粛ムードから売り上げも落ち込んだ。

そんな時、所属していたNPO法人「横浜ひと・まち・くらし研究会」のメンバーから、被災地と横浜を元気づけるイベントを開こうと提案された。関係者に趣旨を説明して回り、「音楽波止場」の初開催にこぎ着けたのは、半年

「ミュージシャンとして、できることで応援したい。幅広い世代に歌声が届くよう、最低10回は続けたい」

*

チケットは前売り2000円、当日2500円で全席自由。問い合わせは、同法人内の実行委員会（045・264・4939）。



（山崎崇史）